

1 教育方針

(1) 教育目標及び教育目標を達成するための基本方針

<p>教育目標</p>	<p>激しく変化する社会において、他者と協働しながらより良い未来を創り出す力を育む ○ 心の豊かな人 ◎ 創造力に富む人 ○ 自らを鍛える人</p> <p>令和8年度の基本理念：共生・自律・創造</p> <p>「多様性の尊重」「主体性の伸長」「創造性の涵養」を三本柱として、 時代を生き抜く確かな資質・能力を育む教育を推進する。</p>
<p>教育目標を達成するための基本方針</p>	<p>安全・安心な学校づくりを第一に、「子どもの権利条約」「こども基本法」及び「江東区こどもの権利に関する条例」に則り、生徒主体で生徒の最善の利益を考えた「みんな、かがやく！」教育活動を行う。 また短期改善を図り、生徒・保護者・地域の声を活かした学校教育を運営する。</p> <p><u>1. 多様性の尊重（共生：安心と平和の土壌）</u> ※豊かな人間性と、他者と共に平和な社会を築く心の育成</p> <p>(1) 人権教育の推進：人権の理解と尊重、包括的性教育、オリパラ教育等を実施する。 (2) 平和学習：長崎修学旅行、戦争に関わる講話、新聞の活用を通して平和な社会を希求し行動できる人間を育てる。 (3) 心の居場所づくりと学校のユニバーサルデザイン化 ア. 授業のUD化 構造化・可視化・焦点化を研修し、授業力を向上させる。 イ. 不登校支援 Eルーム、SC、SSWを活用し、家庭以外の居場所を提供する。 ウ. C組との「交流及び共同学習」を一層推進する。</p> <p><u>2. 主体性の伸長（自律と自立：言葉と非認知能力の向上）</u> ※自ら考え、伝え、挑戦し続ける資質・能力の育成</p> <p>(1) よむYOMUワークシートと新聞の活用：読解力・表現力・対話力・情報活用能力を育成する。 (2) 進路学習：特別活動を軸にキャリア教育を充実させ、自己肯定感や職業観（社会貢献・自己有用感・報酬や糧）の強化を図る。 (3) 生徒会自治能力の育成：縦割りの学習・特別活動・生徒活動等を活性化させ、主体的・積極的に生活向上を図る生徒を育成する。 (4) 生活力の育成：食育・消費者教育の推進、及び体力の向上を図り、力強く生きる力を育成する。</p> <p><u>3. 創造性の涵養（創造：AI活用と未来の開拓）</u> ※テクノロジーを使いこなし、新たな価値を創造する力の育成</p> <p>生成AIの活用 ア. AIとの対話を活用しながら、探究的な学びや創作活動を活性化させる。 イ. AIリテラシー教育（誤情報や著作権を学ぶ授業を通じ、情報を批判的に捉える力を育成）を実施し、思考力を低下させない活用を研修する。 ウ. 教科横断的な学習（STEAM教育）の推進：コラボ授業を通して学ぶ楽しさを味わわせ、教科を多角的に学び、知を繋げる態度を育成する。 エ. SDGsをテーマとした探究学習を学校図書館と連携し一層推進する。</p>

(2) 特色ある教育活動

- 新聞を教室に置き授業等で次のように活用する。
 - ア. 世の中の出来事や地域の取組等に関心をもたせる。
 - イ. 情報リテラシー（社会にあふれる様々な情報を正しく読み解くためのスキル）を身に付けさせる。
 - ウ. 「よむYOMUワークシート」と連動させることで、読む力・書く力を向上させる。
 - エ. 教科等の学習、SDGsや生活指導等とリンクさせ指導に活用する。
- 長崎の修学旅行、平和学習（東京大空襲の講話）や新聞等の活用を通して、世界人類の幸せについて考えさせる。
- 「南中探究の時間」を一層充実させる。文化祭を折り返し地点とし、自ら課題を設定し解決するための学習（PBL）に取り組ませる。
- 「こうとう学びスタンダード定着度調査」と全国学力・学習状況調査の結果等とを関連付け、「学びに向かう力」等に着目しながら分析し、指導と評価の一体化による授業改善を組織的に推進する。特に、他学年との交流等も行いながら、総合的な学習の時間における発表（プレゼンテーション）能力の向上を図り、言語活動を全教科で意図的計画的に充実させる。
- 生徒が自ら学ぶ力と意欲を育成するため、補充教室・放課後学習教室、朝学習及び学習コンテスト等を実施する。また、家庭学習の習慣と基礎学力の定着を図るため、学習者用端末等を活用する。朝学習においては、「よむYOMUワークシート」を全学年で取り組む。
- PTAや地域学校協働本部と連携しながら各種検定を実施する。検定日前には朝学習や放課後学習教室等で対策を行い、学習意欲向上へつなげる。
- 和太鼓の授業を通して、郷土の伝統音楽を学び、地域社会の中でのかかわりを深め、歴史や文化についても学習する。
- 体力向上のためにウォームアップタイムを継続的に行うとともに、運動会等を実施し、自己の目標達成への意欲と強い意志の育成を図る。また、部活動の地域展開、部活動指導員・外部指導員を活用し、部活動の活性化を図る。
- 職場体験、職業講話等キャリア教育の充実を図る。
- 伝統文化、救命救急、健康教育等については、外部人材等を活用した体験学習を行う。
- 読書活動（10分間の「昼読書」）を実施し、読書の習慣を身に付けさせる。
- 「あじみこし」をスローガンに、日常の学校生活においての人間関係形成力を高めさせる。
- 食育の充実を図るため、和食週間を設け栄養士による「食育」指導やランチルーム給食、「弁当の日」を2回実施し、自立を図る。さらに、「おいしいメニューコンクール」「食育標語」を長期休業中の選択課題として取り組む。また、毎年第1学年においては、自らの健康の維持・増進につながる知識を深めるため、日本語を母国語としない生徒にも無形文化遺産である「和食」への理解深めてもらうため、「家庭料理検定」を家庭科の授業内において実施する。

2 「教育推進プラン・江東（第3期）」の推進に向けた重点的な取組

○基礎的・基本的内容の定着を図り、自ら学習する意欲や態度を養うために、学習者用端末を有効に活用する。また、プロジェクターや電子黒板、インターネット等の教材教具・視聴覚機器も活用し、学習指導の充実を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。

【施策（2）主体的・対話的で深い学びの実現】 【施策（3）ICT教育】

○特別活動を軸に、総合的な学習の時間、Challenge Wednesday等を通してキャリア教育を推進し、生徒が将来に向け、自己の願いや考えを実現できる力を育成する。

【施策（4）これからの時代を見据えた取組の推進】

○「江東区こどもの権利に関する条例」について教員と生徒がともに学び、理解を深め、生徒が主体となって安全・安心な学校づくりを推進する力を育成する。

【施策（8）人権教育の推進】

○障害者スポーツ体験や講演会等を通して、パラリンピック競技等に慣れ親しむ。また、生徒の中の多様性や障害者への理解を深め、共生社会の担い手となる人間を育成する。

【施策（10）多様性を認め合う教育の推進】 【施策（14）東京2020レガシーの取組の推進】

○食育の充実を図るため、和食週間・給食週間を設け、栄養士による「食」についての学習や「弁当の日」を2回実施する。自律心、自立心、感謝の気持ちの育成を図る。

【施策（19）食育の推進】

○自閉症情緒障害特別支援学級と連携し、個々の生徒の特性に応じた特別支援教育について取り組む。特別支援委員会を中心に円滑な支援が出来るよう校内体制を整備する。

【施策（20）個性や能力の応じた教育の推進】

○特別支援委員会においてSCやSSWと連携・協力し、組織的な特別支援教育を推進する。また、入学当初より不登校傾向になる生徒への適切な支援を検討・実践する。

【施策（21）「KOTOこどもかがやきプラン」の推進】

○年に2回の学校評価アンケートの分析を通して迅速に改善を図り、生徒・保護者・地域の声を活かした学校教育を運営する。

【施策（52）学校評価の定期的実施】

○教員の働き方改革の推進

ICTの活用や生成AIによる業務改善を図る。朝の打合せ・職員会議、朝学習の課題づくり、定期考査の採点、アンケート調査、文書作成等に活用することで、省資源・省労力を図る。

夏季休業中等には、東京都教職員研修センター等の外部機関の研修を積極的に活用する。働き方改革が教員の研鑽となるよう「本・人・旅」の生き方改革を進める。また準備出勤を充実させ、繁忙期が集中しないようコントロールする。

【施策（58）業務等の見直し】

3 指導の重点

(1) 「こうとう学びスタンダード(ネクスト・ステージ)」の推進に向けた授業改革の視点・授業スタイルについて

- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指すために、発表活動、話し合い活動を通じて、数を重ねるたびに言語能力・情報活用能力・問題発見・解決能力の上達を感じられる場を設定する。
- 授業において、課題設定、自力解決、協働学習、振り返りの学習過程を、構造化・可視化・焦点化して行う。
- 学習者用端末を活用して、知識・理解の定着を図るとともに、メディアリテラシーを身に付けさせ、データの扱いやAIの有効な利用方法を探究する。
- 家庭学習につながるよう、見返したいノート作りを主体的に行わせる。

(2) 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

各教科	<p>「国語科」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文法や表現技法で学んだことを生かし、文章中から必要な情報を的確に読み取る力を育成する。 ○「話すこと」「聞くこと」の活動を通して、自らの考えを形成する力を育成する。 ○新聞やICT、書籍を活用し「読む力」「書く力」を育成する。 <p>「社会科」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的な事象について、資料、写真、新聞記事、図版等を活用して自らの考えを形成し、私事として社会問題に向き合う力を育成する。 ○資料の読み取りを通して話し合い活動を行い、多角的・多面的なものの見方や公正に判断する力を育成する。 <p>「数学科」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新出事項の学習時に既習事項を使用しながら反復学習を行い、日常的に数学的なものの見方、考え方を巡らせる力を育成する。 ○話し合い活動や発表活動を通して、問題解決の過程を振り返り、評価・改善する姿勢を育成する。 <p>「理科」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物・現象の観察を通して、日常生活と関連付けながら理解する力を育成する。 ○既習事項の検討を通して、見通しを持って観察、実験を行う能力を育成する。 ○観察、実験を行い、規則性、関係性を見いだして表現する能力や思考力を育成する。 <p>「音楽科」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○創意工夫を活かした音楽表現をするために、歌唱、器楽、創作の活動を通して必要な技能を身に付ける。 ○鑑賞の活動を通して、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽に親しんでいく態度を養う。 <p>「美術科」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他の生徒の作品や身の回りの機能美、建築物や芸術作品など様々な作品を鑑賞することで、身近な喜びや楽しみ方を広げたり、自分の表現に生かしたりする力を育成する。 ○感じ取ったことや考えたことを言葉やイラスト、写真などで発信したり表現したりする力を育成する。 <p>「保健体育科」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種目の基礎基本を体得することで、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康や体力の状況に応じ体力を高める必要性を認識させ、運動やスポーツに親しむ態度を育てる。 ○保健分野の学習を通じて、個人生活や集団生活における、心と体の健康・安全に関する基本的な知識や技能を身に付ける。 <p>「技術・家庭科」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、技術を駆使し創造しようとする態度を養うために、ものづくり等の体験活動を充実させ、知識や技能を身に付ける。 ○衣食住、特に食育に関する実践的・体験的な学習活動を行い、学びを家族との関わりや家庭生活につなげ、実生活に活用できる力を育成する。 <p>「外国語科」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実際に学んだ英語を使って、外国語で表現し、伝え合う力を育成する。 ○授業中の各活動に取り組む中で、生徒の主体的に言語活動をする力を引き出す。
-----	---

道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな心の育成の推進を図り、自他の生命を尊重し相手を思いやる態度を育成するために、道徳教育推進教師を中心に共に考え・議論をする道徳を目指す。全体計画、年間指導計画及び評価計画に基づき、創意工夫のある授業を行う。 ○教育活動の全体を通して豊かな心を育て、未来に向けて道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成するために、各教科等と関連を図りながら、家庭、地域と連携し、人材活用を工夫し、計画的、発展的に指導を行う。 ○生徒の人権感覚を磨き、いじめを「しない、させない、傍観しない」ための意識を醸成することに重点を置く。また、幅広い視点から考えさせることにも重点を置く。 ○全校道徳の中での縦割りの対話活動を通し、さまざまな考え方にふれ深く考えさせる。また、3年生にリーダーとしての資質や自覚をもたせる。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○E S Dの構成概念を意識した指導計画により、課題解決に必要な「能力・態度」を養う。各学年でSDG s達成のために、教科等横断的な探究学習を全教員で行う。 ○「地域との関わりやSDG sを踏まえた生活を探究する（1年）」、「地球環境についての課題解決や生き方を探究する（2年）」「世界のつながりや自分を活かす場を探究し進路を決める（3年）」を各学年の目標とし、予測不能な社会を生きる力を育む。 ○校外での学習と関連させて、平和、地域、環境、歴史的文化財等について、事前学習・体験学習・事後発表を行い、理解を深める。 ○自己理解を深め、Challenge Wednesdayで夢の実現に向けて目標管理シートを活用し、書いたことを達成できるよう支援する。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会の一員としての自覚を促し、学校生活を共に創造する態度を育成するために、中央委員会を中心に生徒の活動を活性化させ、学校行事等を通して全校生徒が一体となった充実した学校づくりを行わせる。 ○生徒会活動における生徒自治活動を支援し、学校への満足感を高めるとともに、教員と生徒及び生徒相互の信頼を深める。 ○運動会などの体育的行事、文化祭などの文化的行事を生徒会が中心となって計画から取り組み主体性を高める。 ○社会の一員であることの自覚と他の人に対する感謝の気持ちを育てる。 ○地域交流を充実させる。校内で身に付けたものを実社会で体験を通して発展させる。

(3) 生活指導、進路指導

生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ○不登校、長期欠席者を減少させる。特別支援委員会と協働し、生徒一人一人に対してきめ細かい指導と生徒理解を深める。情報を校内で共有し全校で取り組む。 ○学校いじめ防止基本方針をもとに、学校いじめ対策委員会が中心となり、早期発見・早期対応、いじめを許さない風土の醸成に向けての校内体制を構築し、組織的に取り組む。いじめやいじめの疑いがあった際には、いじめ対策委員会を開き、教育委員会、保護者、関係諸機関との連携を速やかに進める。 ○生徒会活動の一環として地域での奉仕活動などを計画的に行い、生徒の自己有用感を高める取組を行う。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の生き方を考えることに主眼を置き、各自の願いや思いを実現するために、3年間を見通した進路計画に基づき総合的な学習の時間や特別活動の時間を活用して、キャリア教育を推進する。またキャリア・パスポートを活用し、小中高の連携を図る。 ○第1学年では、自己の将来や職業について興味をもたせ、正しい勤労観・職業観を育成するために、「身近な職業調べ」を行い、発表することにより知識の共有化を図る。 ○第2学年では、自己の特性や適正について考えるとともに、自ら現在及び将来の生き方を考えることができるようにするために、「上級学校調べ」を行う。また、望ましい勤労観、職業観の育成のために、職場体験学習を実施する。 ○第3学年では、自己の個性や能力に応じた進路選択を行い、その目標達成を目指して努力する態度を育成するため、「社会人講話」「高校の先生の話聞く会」等を行う。また、上級学校の「学校説明会・体験入学」へ参加させる。

(4) 特別支援教育

<p>特別支援校内委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターを中心に、個々の生徒の障害の状態や発達段階を把握し、個別の指導目標や指導内容を定め、学校生活支援シート（個別的教育支援計画）、個別指導計画を作成する。また、週に1回、委員会を開催し、支援を要する生徒に関する情報を全教職員で共有し、事例検討会を行いながら、指導における協働体制を確立する。</p>
--